

「法学部の試験2021年度」
メディア政策論Ⅱ 最終レポート課題問題

担当：塚越健司

■ 以下から**ひとつ**選んで論じなさい。書き始める前に、①～⑤のいずれかを表記してはじめてください。

①「時空間の分離・再結合」「行為の再帰的モニタリング」のキーワードを用いて、近代化から再帰的近代化へ至る歴史を説明せよ。その上で、再帰的近代における問題、課題はどのようなものか、講義に即して記述し、講義で学習したこと参考に克服方法を論述せよ。

②戦後から現代にいたる「現実認識」の歴史的変遷について、講義に沿って説明せよ。その上で、不可能性の時代に生きる上で、メディアはどのような役割を果たし得るか、そしてどのような役割を果たすべきか。講義で学習したことを参考に論述せよ。

③日本の集団主義、および裏読み文化についてそれぞれ説明せよ。その上で、このような文化的傾向を、SNS等のメディアを用いて是正し得るかどうかについて、論述せよ（難易度高め）

④人工知能の特徴について、「中国語の部屋」「ディープラーニング」を絡めて説明せよ。その上で、人工知能と我々の未来がどのようなものになり得るか、「人間の統一性」の観点から考察せよ。

⑤人と技術をつなぐメディア＝媒介物としてのサイボーグ技術とゲノム編集技術について、講義に沿って説明せよ。その上で、それらに通底する問題を、あなたが考えたキーワードを設定した上で論述せよ（講義内容を踏まえているかどうかを問うので、技術については講義内容に即して書きなさい。自分の知識を披露するだけでは点数は取れません）。

■ **注意事項**

- ・本講義は、レポート課題が学期末試験の代わりとなります。
- ・文字数は1700字以上4000字までです。

・ネット上の文章をコピーする行為（コピペ）が発覚した場合は0点になりますので、絶対にしないでください。また、講義内で配布した各講義資料（PDF）の言葉はそのまま使用して構いませんが、基本は「自分の言葉」で書くことを念頭に置いてください。

- ・授業内で提示した資料以外の資料を用いた引用は構いませんが、ほとんど加点の対象になりません（後述）

■ **解説：「説明」と「論じる」ことについて**

・テストは教員に対してではなく、**この講義を受講していない友人にあなたが書いたものを読ませて理解できるかどうかを問います**。故に、自分の言葉で説明できているかを問います（ただし、です・ます調ではなく、である調で記述すること）。

→専門用語を説明・定義なしに利用するケースが散見されます。講義を受講していない友人に読ませてわかるかどうかを考えてください。

・説明とは、この講義で学んだことを自分の言葉でまとめて提示することです。要約と言い換えても構いません。

・レポートで求める「論じる」とは、習ったことを「説明」するのではなく、自分で考えた内容を相手に説得的に記述することです。それは単なる「感想」ではなく、講義内で学んだ知識を吟味し、論理的にある結論を導くことを求めます。社会人にとっては「論じる」ことができるかどうかが強ク問われます。

・レポートでは、すべて解決できるような画期的な解決法を求めてはいません（それは学部生には無理です）。そうではなく、学んだ知識を利用して、自分でいかに考えたか、知識と格闘したかを評価します。

→そのため、レポートでは講義で扱ったこと以外の出来事を調べて記述しても（引用含む）、参考程度にしか評価しません。逆に言えば、講義で学んだこと以外の知識で穴埋めするのではなく、講義内の知識から、自分で思考を深めてください。

・文字数を稼ぐ必要はないので、あなたの頭で考えてください。教員は人工ネットから引っ張ってきた「他人の考え」と、あなたが書いた「あなたの考え」の区別は即座につきます。それは、付け焼き刃の言葉を面接会場で述べた時に、採用担当者が感じることと同じです。自信をもって、自らの思考を深めてください。

以上です。